



第10回健康講話 9月21日(水)

光武先生のご厚意に甘えおかげさまで健康講話が10回を迎えることができました！

いつもお忙しい中、講話を設けていただき本当にありがとうございます。

今回は台風14号の影響もあり、被害等に遭われた皆さまにお見舞い申し上げます。

後片付け等ある中、ご参加いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

今回は、

⇒ 「心房細動と脳梗塞」

* 心房細動をみつけるには？

心房細動は不整脈の一種。その症状は個人差が大きく、早期発見は難しという特徴があります。定期的に健康診断を受けることをお勧めいたします。

・脈が飛ぶ・動悸がする・胸の苦しさをを感じる・突然倒れる

など、人によってさまざまです。

* 心房細動の起こりはじめでは、こうした症状は時々しか見られません。しかし治療せずに放置していると、心房細動による不整脈が長時間続くようになり、

・胸の痛み・息切れ・めまい・ふらつき

などが起きるようになることもあります。

自覚症状がないからと心房細動を放置しておくのは “危険”

突然倒れることもあります。

(「血栓が飛ぶ」ともいいます) 脳の血管をつまらせた場合に「脳梗塞」が起こります。ちなみに複数の臓器や組織の血管を詰まらせた場合を「全身性寒栓症」と呼びます。

他の不整脈と治療が異なるので、診断できちんと見分けることが大切です。

心房細動による脳梗塞で起こる後遺症はその後の生活に大きく影響します。心房細動と診断されたら放置せずに、しっかり治療することが大切です。

心房細動によって起こる「脳梗塞」は命にかかわるような重症のものになりがちであること、そして命が助かったとしても、麻痺や言語障害などの重い「後遺症」を残す場合があります、寝たきりになることもあるなど、患者さんご本人だけでなく、ご家族の生活を変えてしまう可能性があることも十分理解しておきましょう。

また心房細動による「脳梗塞」は、心房細動の症状がない人にも起こるものです。心房細動と診断されたら放置せずに、定期的に受診してきちんと治療を始めることが不可欠です。

心房細動が原因の脳梗塞の特徴

心房細動を原因とする脳梗塞は、言語障害や運動麻痺といった重い後遺症が残ることもあります。

脳梗塞を早期に発見する方法として「FAST」というチェックリストがあります。脳梗塞の初期症状を理解して、症状があらわれた場合に正しく対処できるようにしておきましょう。

F= (Face)・顔の麻痺

A= (Arm)・腕の麻痺

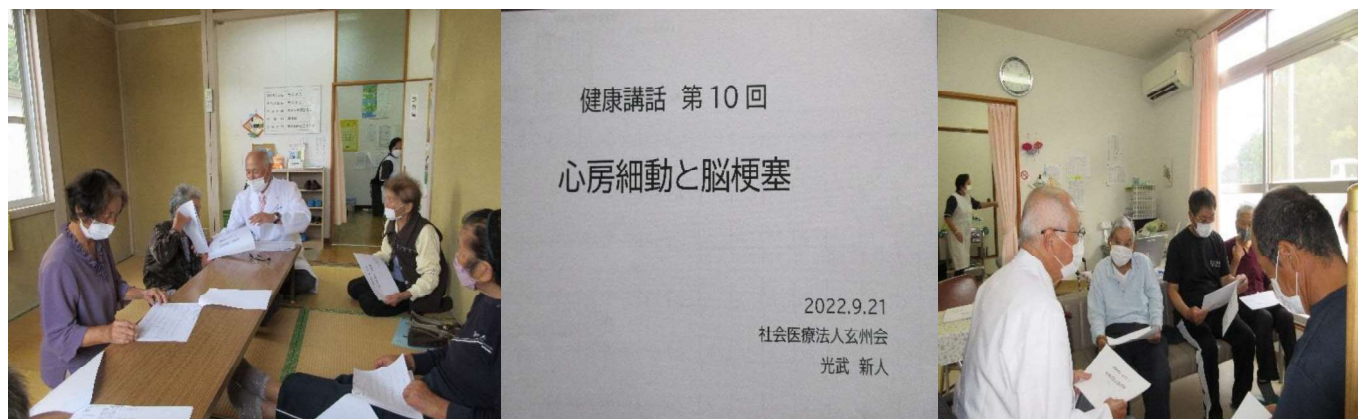
S= (Speech)・ことばの障害

T= (Time)・発症時間

この4個の頭文字をとって「FAST」といいます。

心房細動では、適切な治療を行わないと「心不全」に至る危険性がある場合もあります。

不整脈には心臓そのものに対しての影響としては「良性」・「悪性」のものがあり、失神（意識を失って倒れること）、重度の動悸（心臓がドキドキしてつらい）、重度の徐脈（脈が極端に減ってしまう状態）などの症状があらわれるタイプの不整脈は「悪性」だと考えられます。近年、適切な治療を行わないと「心不全」に至る危険性があることが分かってきました。「心不全」とは心臓のポンプとしての機能が悪くなり、体のすみずみまで必要な血液を送ることができなくなる病気です。その結果、むくみ、疲れやすさ、脈拍数の増加などの症状が起こります。「心不全」を防ぐためにも、早期に専門医を受診して、適切な治療を受けましょう。



コロナウイルス感染予防にも気をつけてくださいね!!

参加者の皆さまご協力ありがとうございました。

何かお気づき等々ございましたらご連絡ください!!

支援員携帯番号 090-6770-1653